

ケアマネ通信

第37号

発行 上越地域居宅支援事業推進協議会 2019年8月吉日

ごあいさつ

会長 居宅介護支援事業所めぐみ 石田 さとみ



この度当会会長に就任致しました居宅支援事業所めぐみの石田です。

前会長の後を引き継ぎこれから2年間、当会の会長を務めさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

今回の居宅介護支援推進協議会の講演では講師の後藤佳苗先生より『自立支援型ケアマネジメントの再確認』との演題で楽しく、具体例を挙げ、法令に基づきながら根拠を説明して頂き、改めて自身のケアマネジメントについて再確認することができました。今後の業務に役立つ講演ありがとうございました。

これから前会長の後を引き継ぎまして、微力ながら会長として今後2年間、会の発展のために努力させていただきます。ぜひとも会員の皆様のお力添えをお願い致します。



令和1年・2年上越地域居宅介護支援事業推進協議会 役員

平成 30 年度講演会

日時 令和元年 6 月 28 日（金） 14 時 20 分～16 時 35 分

会場 高田公園オーレンプラザ ホール

演題 「自立支援型ケアマネジメントの再確認」
～運営基準減算回避の知識を再確認～

講師 あたご研究所代表 後藤 佳苗 氏

『 研 修 会 に 参 加 し て 』

居宅介護支援センター サンクスたんぽぽ

管理者 貝沼 智徳

本当に出て良かった。本当にためになった。終始興味深く聴けた。これが研修終了後の私の率直な感想です。いいねボタンがあれば押したいくらいでした。

今回は自立支援型ケアマネジメントの再確認ということで後藤佳苗先生から運営基準減算にならないモニタリングの実務など細かく留意点を解説いただきました。目からうろこでした。



居宅介護支援専門員として、まだまだ経験不足の私には、とてもタイムリーで求めていた内容でしたし、何より不安に思っていた事が解消されました。

また、講義の中で研修は受けて終わりではなく実践に生かさないという意味がないという言葉がありました。まさしく実践に生かす事のできる内容でした。

そして、先生の熱意が伝播してきて、もっと利用者に寄り添ったケアマネジメントをしなければと原点に立返る事も出来たように思います。

今回の研修を通して、知識や気付きはもちろんのこと、自分の仕事をフィードバックするいい機会にもなると改めて実感しています。



♡地域包括支援センター 紹介♡

リポーン地域包括支援センター

主任介護支援専門員 五十嵐 里枝様



平成30年4月より、春日区・有田区を担当させていただきあっという間に2年目となりました。上越市内初の民間企業として地域包括支援センター事業を受託できましたのも、現在その運営ができておりますのも、皆様のおかげと思っております。いつもありがとうございます。さて、幼老福祉施設スローライフもんぜん内に事務所を構え、社会福祉士2名、保健師、主任介護支援専門員、介護支援専門員の5名で子供たちの声を聞きながら業務を行っています。

当センターではのんびり職員が多いですが、情報をいただいた後は、すぐに対応し、フットワーク軽く、を心掛けています。今年度は地域での介護予防を重点的に取り組んでいけるように5人の頭をひねりながら計画しています。地域全体が、「健康で、いきいきとした生活」ができるため、ご相談に専門かつ総合的な視点でお答えし、「強い味方」「気軽に相談できる関係づくり」を目指して頑張っていきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

みんなでいきる地域包括支援センター

社会福祉士 江部 健幸様



当事業所は介護保険事業における地域包括支援センター事業、居宅介護支援事業、さらに障害児者の特定相談支援事業の3つの相談支援事業を1ヶ所で運営しています。事業開始の発想は年齢で分断されてしまう困りごとや世帯全体の課題に対して、可能な限りワンストップで相談を受けてとめられないか、ということからでした。法人の理念で名称

の「みんなでいきる」実現も含めて模索した結果、地域包括支援センターを軸とした現在の形となっています。

取り組みの一つとして、「できるだけ他の事業に興味を持つこと」があります。これは守秘義務を大事にしたうえで、他の方がどんな相談を受けているか、その内容が自然に聞こえてくる環境設定を行い、強制的に「興味を持つ」状況を作り出すという取り組みです。現在、それぞれが各事業の枠を超えた支援を考えられるようになってきている、と少しずつですが手ごたえを感じています。

これからも「相談支援事業は市民サービスの一つ」という考えの基、市民にとって立ち寄りやすく相談しやすい事業所を目指していきたいと考えています。

